

文福茶釜の狸はその點誠に善良でしかも義侠に富み愛すべき狸である。かちく、山の狸は悪の一貫でもあるし、その報いが餘りにも残酷で、誠に話しにくい。それに比べていゝ化け方であるから、陳腐の厭ひがあるが、かうした日本昔話を次々傳へつゞけてゆくのも一つのつぎめであらう。

### 第十四週

ロビンソン漂流記

全部を五回に分けて、この週は始めの三回位を話す。この時期になれば、昨日きいた話、一昨日きいた話は覚えて

## 観 察

### 第十三週

からすうり

木の葉が殆ど散り切つた頃、やぶの中等に赤い提灯の様に下つてゐるからすうりは何だかファンタスティックな、

野趣あるものだ。都會の子息もは知らないことが多い。私達

るよう。みんながみんな筋道りは把握してゐないにしても、次の話をきいて、突然の感を受けるような事は無い。然し、さうは思つても、話す方から云へば順序として、昨日やめておいた處を再び繰り返して、そこから始めることだけは是非しなければならぬ。

この長い話の中で不自然なところ、誇張しすぎた處が一點も無いこの話は、その堅實性が却つて興味を惹くらしく、この話をしたあゝ幾度かせがまれる。その度にくり返して話してゐる。

は氣をつけて斯うした野のものを集めて親しませ度い。これの塗り繪をさせる時のお手本は實際のものを用ひ度いものである。名の如く葫蘆科の植物である。

冬眠中の蟲

急に冬眠中の蟲を見せ様として土の中をひつくり返して

も見當がつきかねる。前からの用意の一例として、もつこ早く秋の毛蟲を飼育する。するこ土の中へさなぎこなつてこもる。それを見せて死んでゐるのではない事、春の爲、土の中で冬を越す蟲のここを話す。これは飼育も子ぎも達こ一しよにするのである。又繪によつて蛇や蛙の冬眠に話を進めてもよい。

#### 第十四週

おもちやのいろく。

動くおもちやをつくるので、その前にする觀察。主として動くおもちやについて動く原因をみせる事にする。機械に對する興味をねらふこでも言はうか、ゼンマイ仕掛、バネ仕掛、ゴムによる、これ等の原動力から動くに至るメカニズムをみせる。斯うなつて斯うなつてこの足が動く、この車が動く、こいふ様に。

みかん

果物の觀察としては割合に都合よく出来る材料である。

これでは果物こいふものを中迄觀察させられ易い。成可く數多くみかんを用意して自由畫こか缺仕事こかの作業こむ

すびつけて外の觀察をさせたら愈々中である。すぐさま皮をむかずに枝付の部分をこつてその下の小さな白い突起を數へさせる。先生のを數へて皆に發表し、他のを數へさせて覺えておかせ、皮をむいた時中の袋の數こ比較させる。中の袋の數は數でA兒の、B兒のこ比較させる。あこは袋を出して分けてやるもよし。女兒のお手傳ひでみかんゼリをこしらへるのも楽しいここであらう。

#### 第十五週

お正月の仕度

斯う言つた觀察位漠然こしたものはない。が社會興味を多少持ち始めて来る年齢の子ぎもに取つてよく扱はれたなら面白いここである。お正月になれば小學校へ行くのが近くこいふ喜でいつの年より待たれるお正月である。自ら丈でなくおうちのここ、町のここなぎみに行つたり注意させたりして話合こして發表させ一しよに喜び待ちたい。